

西諸県地域の普及活動

令和6年12月
西諸県農林振興局
(西諸県農業改良普及センター)

I 管内農業・農村の主な動き

1) 12月期子牛郡品評会が開催

6日に、小林地域家畜市場において、西諸県郡市畜連主催による令和6年12月期子牛郡品評会が開催されました。

12月13日から15日に開催される12月期子牛セリ市に出荷される雌子牛のうち、市町子牛品評会を経た49頭が出品され、審査の結果、優等賞に8頭、尙等賞に22頭、弐等賞に19頭が選ばれました。なお、優等賞首席は小林市の脇屋敷誠さん出品の「みく」号(耕富士-真華盛-忠富士)、2席は小林市野尻町の田丸信俊さん出品の「ここあ」号(二刀流-耕富士-勝平正)、3席は小林市の脇屋敷まさ子さん出品の「さくらこ」号(耕富士-秀正実-満天白清)が受賞されました。受賞牛は、発育良好で体積豊か、輪郭鮮明との講評でした。



【みく号】

II 主な普及指導活動等の取組

1 プロジェクト(総合、専門)に関する普及活動

(持続可能な農業生産の実現へ向けたアグリプレーヤーの確保・育成)
(魅力的な子牛産地を支える実力ある肉用牛繁殖経営の確立)

1) 第9回、第10回アグリ★ベーシックセミナー(畜産)を開催

4日及び18日にアグリ★ベーシックセミナーの畜産農家向け研修会を開催しました。

内容は、4日に普及センター畜産担当から飼料作物の栽培の基礎について、18日にNOSAI宮崎西諸家畜診療所及び都城家畜保健衛生所から繁殖牛・子牛の主な疾病や家畜防疫について研修を行いました。

今回の農業者の参加人数は、それぞれ7名、4名でしたが、両日ともに日頃の経営で疑問に思っていたこと、分からないことについて積極的に質問が上がり、有意義な研修会となりました。



【飼料作物栽培の基礎についての講義】

※この報告書では、JAみやざきこぼやし地区本部を「JAこぼやし地区」、
JAみやざきえびの市地区本部を「JAえびの市地区」と表記しています。
生産部会名は名称のため、地区の表示がないことがあります。

2) にしもろサップ冬期大会を開催

19日に、普及センターにおいて、にしもろサップ会員12名（小林市SAP：5名、えびの市SAP：7名）と関係機関の参加のもと、令和6年度にしもろサップ冬期大会が開催されました。大会では、農業経営の改善に向けたプロジェクト発表、自分の農業に対する思いを発表する意見発表、会員全員がそれぞれに取り組む1人1課題プロジェクトの報告が行われました。

プロジェクト発表及び意見発表については、関係機関や農業経営指導士による審査と助言があり、今後の経営に活かされていくことが期待されます。

なお、今大会で発表されたプロジェクト発表と意見発表それぞれ1課題については、来年の1月24日に開催される県SAPグランプリで発表が予定されており、より良い発表ができるよう普及センターとしても引き続き支援していきます。



【意見発表：仕事への想いを語るSAP会員】 【プロジェクト発表：経営改善の取組発表】

(にしもろの畑地を生かした収益性の高い加工・業務用野菜産地の確立)

1) ミシマサイコ（薬草）県外視察研修を開催

6日に、熊本県あさぎり町において、ミシマサイコ先進地視察研修を開催し、生産者9名、関係者13名（JAこばやし地区、漢方薬メーカー、小林市、総合農試（薬草センター）、普及センター）が参加しました。

初めに、あさぎり町担当者及び生産者代表から、地域の概要や産地化への取組み等に関する説明が行われ、その後、近隣ほ場と共同加工施設で現地研修が行われました。

今回の視察研修は、全般に大変参考になる内容であり、参加者の意欲が高まるものとなりました。



【ミシマサイコ現地研修】

2) ミシマサイコ（薬草）現地検討会を開催

23日に、小林市野尻及び高原町において、ミシマサイコ現地検討会を開催し、生産者4名、関係者8名（JAこばやし地区、漢方メーカー、小林市、総合農試（薬草センター）、普及センター）が参加しました。

初めに、生産者ほ場（小林市野尻町）でミシマサイコの試し掘りを行い、その後、JA施設（高原町）に移動し、洗浄機での洗浄と調整作業（はさみで不要部分の除去）の確認等を行いました。

今後もミシマサイコの生産振興に向けて関係機関と連携した支援を行って参ります。



【ミシマサイコ現地検討会】

3) 茎わさび生産者巡回、講習会を開催

19日に、小林市野尻及び高原町において、茎わさび生産者巡回及び講習会を実施し、生産者9名、関係者（金印株式会社、JAこばやし、JA経済連、JAアグリシード）8名が参加しました。今年度は、苗づくりが例年より順調であったため、定植後の初期生育も併せて順調です。また、西諸地区技術員会作成の栽培暦を新たに配布したことにより、基本技術が励行されました。

令和7年5月の出荷時点で鉄コンテナ出荷も導入され省力化が図られることから、生産意欲も高まっています。



【茎わさび現地巡回】

（スマート生産基盤の確立による収益性の高い果菜類産地の育成）

1) JAえびの市いちご団地講習会（第6回）

25日に、えびの市いちご団地において、研修生2名を対象とした講習会が開催されました。普及センターからは、農業をする上で必要な知識の定着を図ることを目的として、①農薬に関する法律②農薬の適正使用③1～2月の栽培管理について説明しました。その後、本圃での生育状況を確認しながら、栽培管理に関して研修生と意見交換を行いました。

研修生は大変熱心に勉強しており、会を追う毎に質疑のレベルが高くなってきました。研修生の熱意に負けないよう、引き続き関係機関と連携した研修指導を行っていきます。

（魅力ある西諸果樹産地の維持・発展）

1) JAこばやしマンゴー部会全体研修会

17日に、JAこばやしマンゴー部会全体研修会が行われ、部会員約30名、関係機関5名が参加しました。研修会では、亜熱帯作物支場担当者から後期出荷作型におけるCO2施用効果、普及センターからは小林市野尻町でのCO2施用効果、あざ果等に関すること、第三者承継について説明しました。CO2施用について、生産者の関心が高く、熱心に聞いている様子でした。

今後も引き続き関係機関と連携し、地域の課題に取り組んでいきます。



【熱心に聞き入る生産者達】

（西諸県地域の特色を活かした花き産地振興）

1) 高原町花卉部会の定例会が開催

27日に、高原町管内において定例会が開催され、生産者6名、関係機関4名が参加しました。JAから情勢報告が行われ、12月年末出荷の状況について説明されました。普及センターからは、今後の気象と立枯性の病害について説明を行いました。

引き続き関係機関と協力し、部会の活動を中心に支援していきます。

2) ラナンキュラスの切り花栽培支援の実施

西諸県管内のラナンキュラスの切り花生産者9戸、球根生産者1戸のは場巡回及び支援を定期的に行っています。

また今年度は、管内でラックス系の切り花生産を開始しました。そのため、26日に栽培方法や出荷調整等について宮崎市内のラックス生産者のは場を視察をさせていただきました。ラックス系の生産が初めてであり、分からないことが多いですが、生産者同士が積極的に意見交換され、とても勉強になりました。

年明けから本格的な出荷が始まりますので、今回の視察を活かし、安定出荷に向けた支援を引き続き行っていきます。



【宮崎市の生産者と管内生産者との意見交換】

2 プロジェクト(総合、専門) 以外の普及活動

1) 第3回水稲栽培基礎講習会

10日及び12日に、普及センター及びJAえびの市大研修室にて、第3回水稲栽培基礎講習会を開催し、当管内の生産者82名が参加しました。

講習会の内容は、今年度の普通期水稲作況、来年度に向けてやるべきこと、水稲の年間スケジュール、水稲省力化技術について基礎的な内容を説明しました。

今後は講習会の内容を生かし、関係機関と連携を図りながら生産者への支援を行っていきます。



【講習会の様子】

2) 西諸県地区女性農業者サポート協議会研修会の開催

23日に、普及センターにおいて、西諸県地区女性農業者サポート協議会研修会を開催し、女性農業者集団の代表者及び関係機関が26名参加されました。

講師に福岡県から(株)oneスマイルの福田純子氏を招き、「笑顔で農業経営を変える」という演題で、仕事や人に対する正しい向き合い方や農業経営をはじめとするあらゆる場面で物事を前向きにとらえる「考え方」についてお話いただきました。農業者向けの研修会では聞くことのないような研修となりましたが、参加者からは、心の健康に役立つ楽しい研修会になったとの感想もあり、有意義なものとなりました。



【講師と参加者が一体となった研修会終盤】

3) 西諸県地区野菜部会第4回技術員会及び現地研修

9日に、西諸県営農振興協議会野菜部会の技術員会及び現地研修が開催されました。技術員会では、品目毎の生育状況や大分県の夏秋ピーマンの視察、農薬使用時の注意等について情報提供がありました。

また、技術員の指導力向上を目的とした現地研修では、小林市管内のほ場において、農地の均平化を行うレーザーレベラーの実演を見ながらその特徴等について説明を受けました。今回の研修で学んだことを今後の農家支援の中で生かしていきたいと思えます。



【レーザーレベラーの説明を聞く技術員】

4) 第14回メロン・マンゴーフェア実行委員会役員会の開催

27日に、三ヶ野山出張所において標記実行委員会の役員会が開催されました。会では、今年の実績報告がされた後、メロン及びマンゴーの生育状況の説明と第14回フェアの開催方法について検討が行われました。JAこぼやし管内においては恒例の一大イベントですので、生産者と関係機関が一体となり盛り上げていきたいと思えます。

5) 西諸県地区果樹技術員会 福岡県・熊本県視察研修

3～4日に、担い手確保対策の事例収集を目的に、福岡県行橋農林事務所京築普及指導センター、熊本県芦北総合庁舎地域振興局で話を伺いました。今回の2地域は、廃園予定の果樹園を新規就農者の研修ほ場として活用し、研修終了後は、その果樹園で就農した事例でした。今後は廃園予定の果樹園が増え、新規就農者が見つかるまで園地をどう維持するか（労働力やコスト）が課題となると感じました。

これからも引き続き関係機関と連携し、地域の課題に取り組んでいきます。



【果樹産地での新規就農支援について学ぶ果樹技術員達】

6) JAこぼやしマンゴー部会と評価会社、県農業担い手対策課等との意見交換会

16日に、担い手確保対策に関する意見交換会を行い、評価会社社長と県農業対策課1名、専技センター2名、農業振興公社2名、JAみやざき中央会1名、普及センター2名が参加しました。マンゴー部会三役との意見交換では、「産地が縮小していく中、新規就農者から選ばれる産地となるため、樹体価格の算定方法の検討等を引き続き行っていきたい。」との意見が出ました。

今後も引き続き関係機関と連携し、地域の課題に取り組んでいきます。



【樹体価格等について県関係者等と意見を交換する部会役員達】

7) 西白杵管内でのランンキュラス研修会に参加

4日に、地域のランンキュラス研修会が西白杵地域で開催され、西諸県のランンキュラス生産者3名と関係機関4名が参加しました。

現地ほ場を視察し、その後室内で講義がありました。今年ランンキュラスにとって厳しい気象条件であり、10月の高夜温と曇雨天続きで初期生育が悪く、例年より株が充実していません。その厳しい気象条件の中でも、基本的な土づくりやウイルス対策、優良な球根作りを徹底的に実践されている視察ほ場の生育は良好でした。

今後の栽培は異常気象に対応した栽培が必須となります。基本的な栽培を徹底的に実施するとともに、大苗育苗技術など試験場や専技等と連携して優良技術の導入支援を行っていきます。



【部会長からほ場について説明を聞く参加者達】

8) 西諸県地区花き技術員会第5 回定例会の開催

16日に、高原町役場にて第5回定例会を開催し、関係機関11名が参加しました。

室内検討では、総合農業試験場の花き担当専技と花き部のランンキュラス担当から、ランンキュラスの大苗育苗技術の内容及び導入について説明いただきました。管内では、大苗育苗を一部実証しており、今年の高温と曇雨天の中、株を充実させており、生産者からは、品質面で高評価であるものの、導入コストや管理労力の面から導入が進んでいない。今後、試験場や関係機関との連携が必要となることから、今回意識統一も含め情報共有を図ったところ です。

現地視察では、営振協展示ほを実施している管内のランンキュラスほ場を視察し、ほ場の状態と生産者との意見交換を行いました。上記の大苗育苗の実証も行っていることから、生産者から様々な意見をいただき、また関係機関の間でも情報交換したことで、今後の技術員会の活動につなげていきたいと思ひます。



【ランンキュラス生産者と現地で意見交換】